

平成22年度 白馬村消防ポンプ操法大会実施要領

1. 日 時 平成22年6月13日(日)

受 付	午前7時50分
開 会 式	午前8時30分
競技開始	午前9時00分
競技終了	午後1時10分(予定)

} 別紙「タイムスケジュール」による

2. 場 所 岩岳駐車場

3. 大会役員	大会長	太田 誠 (団長)
	副大会長	丸山 和之 (副団長)
	審査長	太田 忠 (総務課長)
	審査員等	別紙審査員表による

4. 競技要領

(1)ポンプ操法

「長野県消防ポンプ操法大会操法実施要領」及び大北地区消防ポンプ操法大会調整事項等による

(2)放水競技

「白馬村放水競技実施要領」による

5. 審査要領及び審査会

審査は、「長野県消防ポンプ操法大会操法大会審査要領」により行い、審査会は、競技終了後直ちに実施する

6. 表彰式

表彰は、閉会式において行う

(1)チームの部

1位から3位までに賞状及び賞金を授与する(1部、2部、放水競技の部)

(2)個人の部

各部、各番員の最優秀選手1名に表彰バッジを授与する(1部、2部)

1部：指揮者、1番員、2番員、3番員、4番員、2部：指揮者、1番員、2番員、3番員

7. 選手名簿

別紙様式により、平成22年6月9日(水)までに役場総務課へ提出すること

8. 使用器具

使用器具は、各チームが用意することとし、規格等は「長野県消防ポンプ操法大会操法実施要領」

に定められたものとする

9. 開会式、閉会式及び表彰式

【開会式】

- | | | | | | |
|--------------|---------------------|-------------|----|---------------|---|
| (1)集合 | 総指揮者 | 横山義彦（統括分団長） | — | ラッパ吹奏「部隊集合」 | — |
| (2)開式のことば | | 丸山和之（副団長） | | | |
| (3)大会長あいさつ | | 太田 誠（団長） | — | ラッパ吹奏「観閲者に敬礼」 | — |
| (4)優勝トロフィー返還 | | | | | |
| | 昨年度 | 第1部 | 優勝 | 南部分団 | |
| | | 第2部 | 優勝 | 南部分団 | |
| | | 放水競技 | 優勝 | 南部分団 | |
| (5)来賓あいさつ | | | | | |
| | 白馬村長 | 太田紘熙 | — | ラッパ吹奏「観閲者に敬礼」 | — |
| | 北アルプス広域北部消防署長 | 奥原一繁 | — | ラッパ吹奏「観閲者に敬礼」 | — |
| | 白馬村消防委員長 | 横山武久 | — | ラッパ吹奏「観閲者に敬礼」 | — |
| (6)審査員紹介 | | | | | |
| (7)審査長注意 | 太田 忠（総務課長） | | | | |
| (8)選手宣誓 | 第2部1番くじ（本抽選）を引いたチーム | | | | |
| (9)閉式のことば | 丸山和之（副団長） | | | | |

【閉会式及び表彰式】

- | | | | | | |
|----------------------------------|------------|------------|---|------------|---|
| (1)開式のことば | 丸山和之（副団長） | | | | |
| (2)審査結果発表 | 太田 忠（総務課長） | | | | |
| (3)講評 | 審査員代表 | | | | |
| (4)表彰 | ・チームの部 | | | | |
| | 第1部 | 1～3位 | — | ラッパ吹奏「表彰曲」 | — |
| | 第2部 | 1～3位 | — | ラッパ吹奏「表彰曲」 | — |
| | 放水競技 | 1～3位 | — | ラッパ吹奏「表彰曲」 | — |
| | ・個人の部 | | | | |
| | 第1部 | 指揮者、1～4番員 | | | |
| | 第2部 | 指揮者、1～3番員 | | | |
| (5)壮行式（第1部、第2部優勝チーム及びラッパ隊は前列に移動） | 激励 | 太田 誠（団長） | | | |
| | 謝辞 | 太田俊祉（ラッパ長） | | | |
| (6)閉式のことば | 丸山和之（副団長） | | | | |
| (7)解散 | | | | | |

白馬村ポンプ操法大会 タイムスケジュール

6 : 30	・本部集合	会場設営
7 : 30	・北部署集合	
	・団員集合	借用物品を本部テントへ
50	・選手受付	点呼、申告事項の確認
	・器具点検	
8 : 10	・主将会議	注意事項の確認、くじ引き、放水競技選手名簿の提出 ・各チームの主将及び分団代表者が参集
	・審査員・本部員 打ち合わせ	
30	・開会式	
9 : 00	・競技開始	
	(第2部)	1チーム 約10分
10 : 30	(第1部)	1チーム 約15分
11 : 30	・第1部、第2部 競技終了	
	放水競技準備、昼食	
12 : 00	・競技再開	
	(放水競技)	1チーム 約8分
13 : 10	・競技終了	
20	・ラッパ吹奏披露、審査会	
30	・閉会式(表彰及び壮行式)	
14 : 00	・解散、撤収	

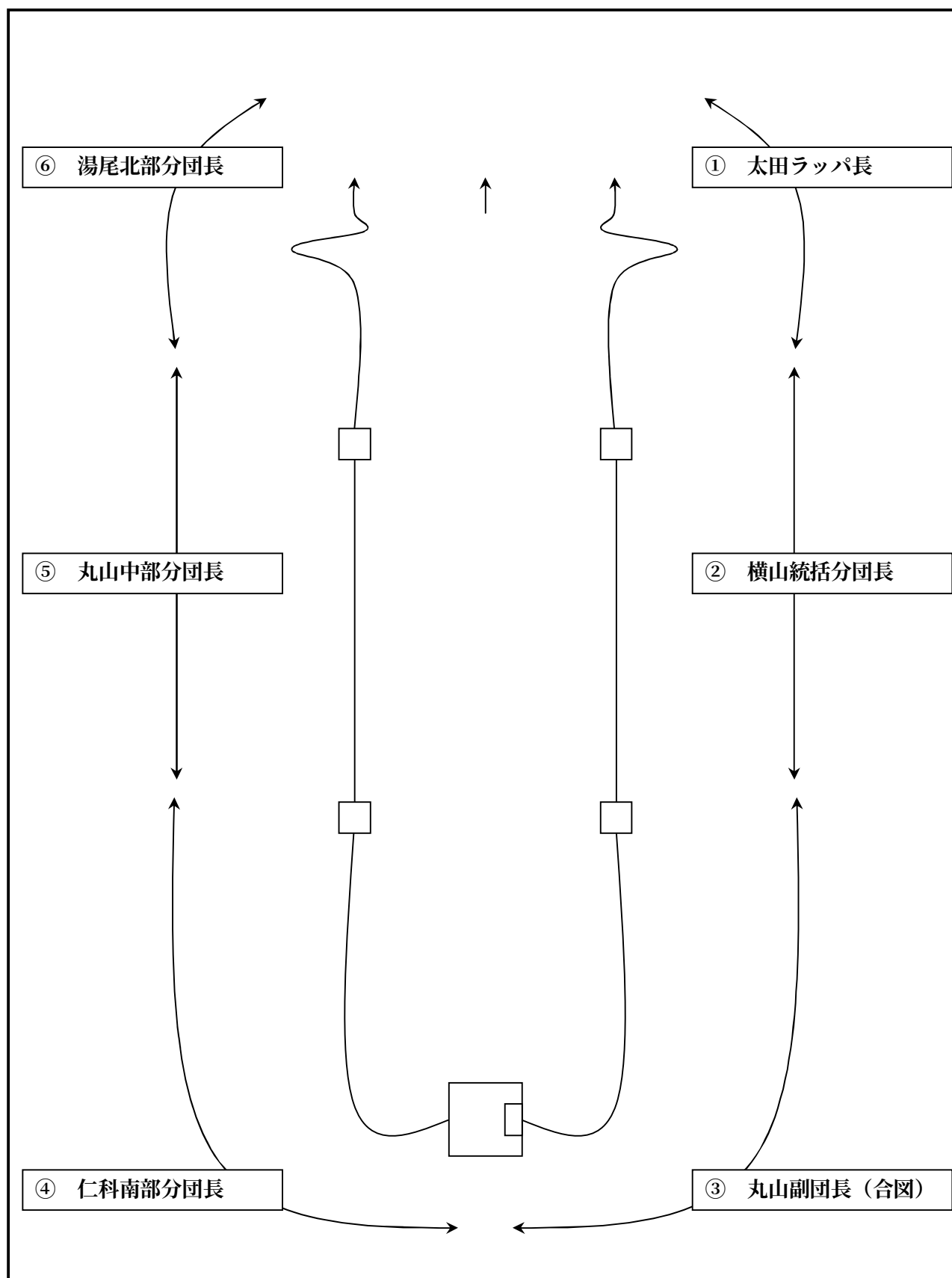
平成22年度 白馬村消防ポンプ操法大会 審査担当表

		第1部（ポンプ自動車）	第2部（可搬ポンプ）
審査長		太田総務課長	太田総務課長
審査班長		山岸本部長	山岸本部長
総合	1	太田ラッパ長	太田ラッパ長
	2	横山統括分団長	横山統括分団長
	3	丸山副団長	丸山副団長
	4	仁科南部分団長	仁科南部分団長
	5	丸山中部分団長	丸山中部分団長
	6	湯尾北部分団長	湯尾北部分団長
指揮者		降簾消防司令補	降簾消防司令補
1番員		飯島消防司令補	飯島消防司令補
2番員		黒雲消防司令補	黒雲消防司令補
3番員		郷津消防司令補	郷津消防司令補
4番員		宮田消防副士長	
計 時		栗田救護長・鈴木本部員	栗田救護長・鈴木本部員
計 器		横山本部班長・田中本部員	横山本部班長・田中本部員
進 行		総務課職員	総務課職員
庶務・計算		太田雄介・総務課職員	太田雄介・総務課職員
会場設営他		本部員	本部員

放水競技

審査長	太田総務課長	総括
審査班長	山岸本部長	総括補助
審査員1	丸山副団長	総合、水利側
審査員2	横山統括分団長	総合、火点側
審査員3	太田ラッパ長	総合補助、水利側
審査員4	横山本部班長	総合補助、火点側
計時1	栗田救護長	タイム計測
計時2	鈴木本部員	タイム計測
進 行	総務課職員	
庶務・計算	太田雄介・総務課職員	
会場設営他	本部員	

総合審査員配置図（第1部、第2部）



白馬村消防団表彰規程

平成 15 年 4 月 1 日 制定

改正 平成 21 年 6 月 1 日

(目的)

第 1 条 この規程は、白馬村消防団規則（昭和 32 年規則第 1 号。以下「規則」という。）第 19 条第 2 項の規定による消防団長の行う表彰について定めるものとする。

(表彰の種類)

第 2 条 表彰は、次の各号に定めるものとする。

- (1)功績章
- (2)功労章
- (3)技術章
- (4)10 年勤続功労章
- (5)5 年勤続功労章
- (6)ラッパ功労章
- (7)消防ポンプ操法大会優秀賞

(表彰の基準)

第 3 条 前条の表彰は、次の各号に定める基準を満たす団員に対して授与することとする。

- (1)功績章
勤続 15 年以上で、勤務勉勵平素よく率先垂範して消防の使命に尽瘁し、消防上特に功績のあった者
 - (2)功労章
勤続 10 年以上で、勤務勉勵技能熟達し、消防任務の遂行上功労顕著であり、他の模範と認められる者
 - (3)技術章
勤続 5 年以上で、特にポンプ操法、ラッパ吹奏、水防、救護等に卓越した技術力を有し、指導者としてふさわしいと認められる者
 - (4)10 年勤続功労章
勤続 10 年で、勤務成績優秀な者
 - (5)5 年勤続功労章
勤続 5 年で、勤務成績優秀な者
 - (6)ラッパ功労章
ラッパ員として勤続 5 年で、勤務成績優秀な者
 - (7)消防ポンプ操法大会優秀賞
消防ポンプ操法大会において、特に優秀な成績を収めた者
- 2 前項第 1 号から第 6 号の表彰における勤続年数の基準は、毎年 4 月 1 日現在とする。

(表彰の具申及び審査)

第4条 各分団長は、前条第1項第1号から第6号に定める表彰基準に該当すると認められる者につき、毎年3月10日までに消防団長に具申するものとする。

2 表彰の審査は、前条第1項第1号から第6号に係るものは正副分団長会議において行い、前条第1項第7号に係るものは消防ポンプ操法大会審査会において行う。

(表彰の時期)

第5条 第3条第1項第1号から第6号に定める表彰は原則として、毎年消防団出初式の行われる日にこれを行い、第3条第1項第7号に定める表彰は、毎年消防ポンプ操法大会の行われる日にこれを行う。

(徽章の形状)

第6条 徽章の形状は別に定めることとする。

(徽章の使用)

第7条 消防団員が制服を着用する際は、常に徽章を付けることとする。ただし、職務遂行上支障のある場合はこの限りではない。

附 則

この規定は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規定は、平成21年6月1日から施行する。

第6条関係

徽章の形状について

第3条第1項第7号の徽章の形状は次のとおりとする。

1 ポンプ車操法の部



株式会社東京ボタン X 2 (45) 操法記章

(裏面)

優秀賞
H22 白馬村ポンプ車操法
指揮者

(裏面)

優秀賞
H22 白馬村ポンプ車操法
1 番員

(裏面)

優秀賞
H22 白馬村ポンプ車操法
2 番員

(裏面)

優秀賞
H22 白馬村ポンプ車操法
3 番員

(裏面)

優秀賞
H22 白馬村ポンプ車操法
4 番員

2 小型ポンプ操法の部



株式会社東京ボタン X 3 (44) 操法記章

(裏面)

優秀賞
H22 白馬村小型ポンプ操法
指揮者

(裏面)

優秀賞
H22 白馬村小型ポンプ操法
1 番員

(裏面)

優秀賞
H22 白馬村小型ポンプ操法
2 番員

(裏面)

優秀賞
H22 白馬村小型ポンプ操法
3 番員

消防ポンプ操法大会優秀賞に関する申し合わせ事項

平成 21 年 6 月 5 日

1 表彰の区分

表彰の区分は次のとおりとし、その区分ごとに、最も優秀な成績を収めた者 1 名を表彰する。

(1) ポンプ車操法の部

- ア 指揮者
- イ 1 番員
- ウ 2 番員
- エ 3 番員
- オ 4 番員

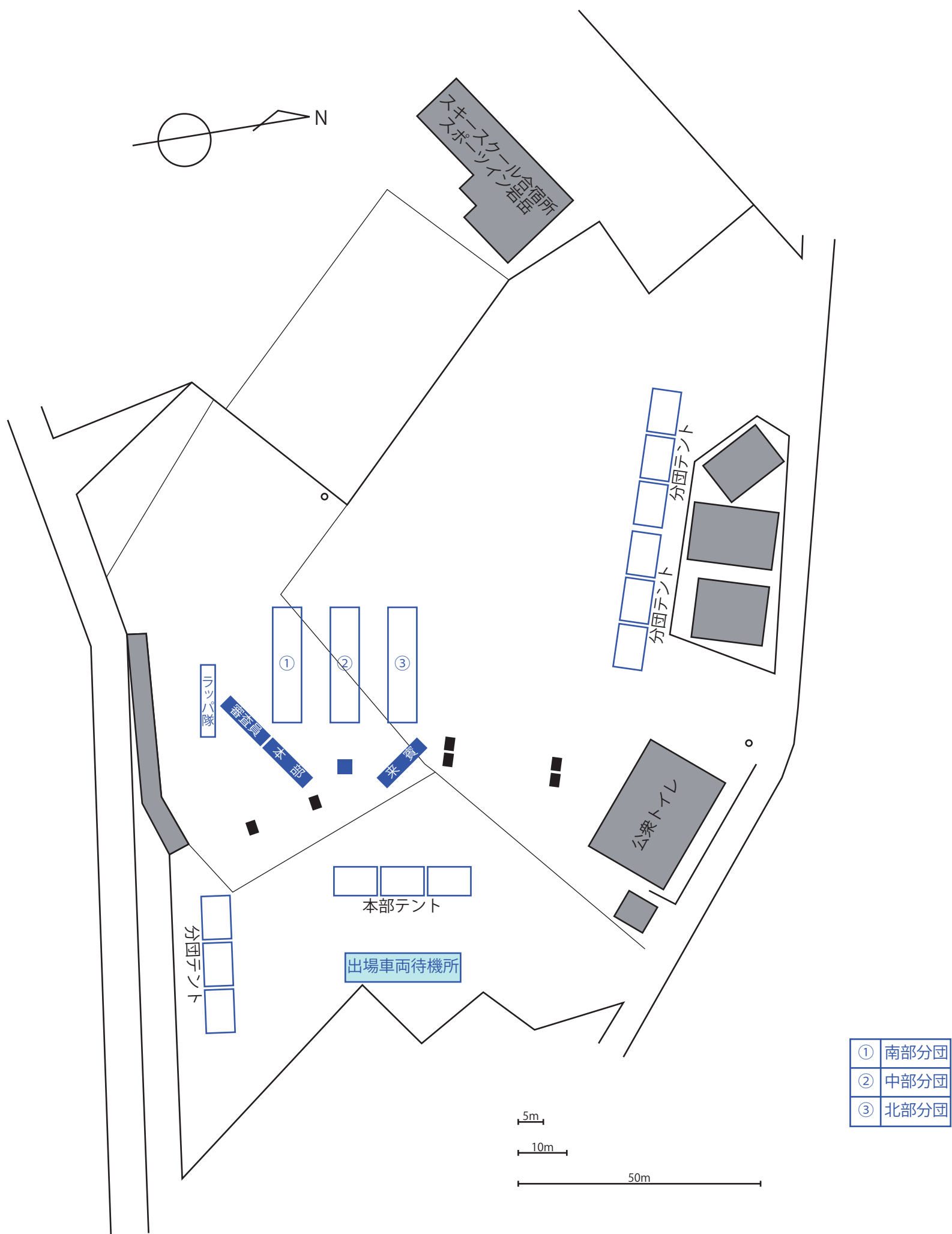
(2) 小型ポンプ操法の部

- ア 指揮者
- イ 1 番員
- ウ 2 番員
- エ 3 番員

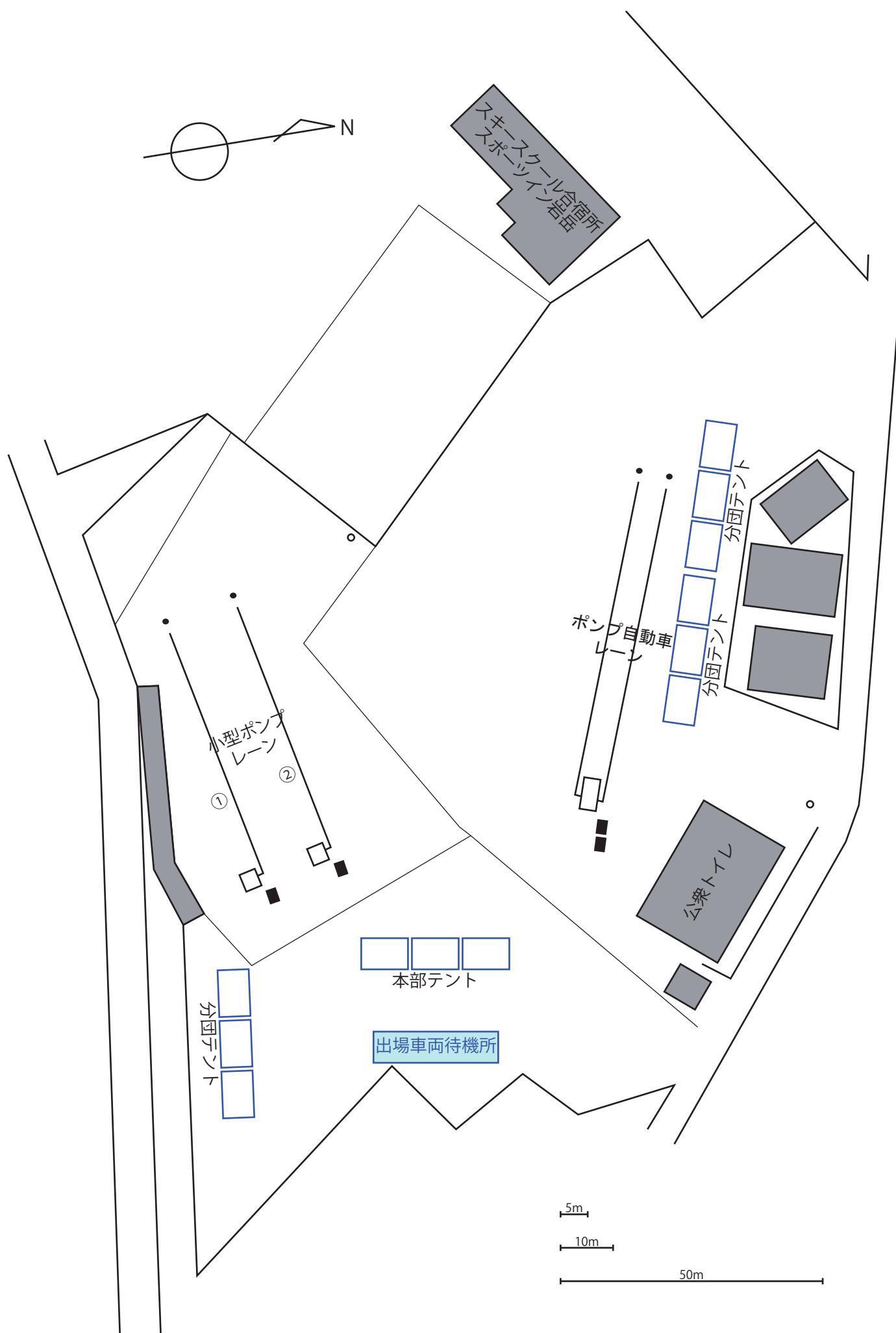
2 受章者の決定

1 の区分ごとに次により順位を決定し、最も優位である者を受章者とする。

- (1) 「隊員別審査表」の減点数の小なる者を優位とする
- (2) (1)の点数が同じ場合は、隊員別審査の減点数の合計に所要時間の減点又は増点を加算、それに総合評点を加算し、減点数の小なるチームに属する者を優位とする
- (3) (1)及び(2)の点数が同じ場合は、「総合審査表」の減点数の小なるチームに属する者を優位とする
- (4) (1)～(3)の方法によっても順位が決定しない場合は、審査会にはかり審査長が優位を決定する



白马村消防ポンプ操法大会配置図(開閉会式)
岩岳駐車場



白马村消防ポンプ操法大会配置図(大会レーン)
岩岳駐車場

大北地区消防ポンプ操法大会審査要領 (平成22年度)

二重下線加除訂正 白馬村版

1. この要綱は、大北地区消防ポンプ操法大会（以下「操法大会」という。）の審査について必要な事項を定める。

2. 審査員は、次のとおりとする。

(1)審査長	1名	
(2)審査班長	1名	
(3)審査員	総合審査員	
	行動審査員（各操作員に1名）	
	ポンプ車操法	5名
	小型ポンプ操法	4名
	計時審査員	2名
	計器審査員	<u>2名</u>
	記録・集計	2名

3. 審査員所掌事務

- (1)審査員の所掌事務は、審査長の指示に従い、審査要領に基づき公平に担当区分の審査を行う。
- (2)審査基準は、「長野県消防ポンプ操法大会操法実施要領」の操法大会審査要領に基づくほか、大北操法大会調整事項による。

4. 操法の要領

「長野県消防ポンプ操法大会操法実施要領」の消防操法実施要領による。

5. 使用機械器具

- (1)操法大会使用の機械器具は、出場隊の持ち込みとし、規格は「長野県消防ポンプ操法大会操法実施要領」の定めるところによる。
- (2)器具点検
 - ア ホースは、大会前に審査員の検査を受け、適正と認められたものを使用する。
 - イ 他の機械器具は、事前検査はないが入場後前記(1)の規格と著しく異なると審査班長が認めるものは、使用することができない。
（この場合審査班長は機械器具の交換を命ずることができる）

6. 出場隊の服装

長野県消防操法大会に準ずる。

7. 審査

(1)審査員共通事項

- ア 操法及び審査要領は「長野県操法大会」に基づくので、審査員はよく内容を読むこと。
- イ 審査要領中注意しなければならない事項については別記「長野県消防ポンプ操法大会審査要領」注意事項にまとめたので、よく読むこと。

(2)総合審査員の基本的視点

下記項目を主な視点として採点する。

- ア 行動審査表の減点項目にはないが重要と考えられる事項
- イ 行動審査表の減点項目にある重大な過失
- ウ 操法全般のまとめ
- エ 隊員全体の動作のバランス
- オ 特に優れている事項

(7)規律・節度

消防訓練礼式の基準のとおり行っているかを審査

- ① 集合・待機線における整頓要領
- ② 各個動作
(基本の姿勢、休めの姿勢、方向転換、駆け足、敬礼等)
- ③ 部隊動作
(集合、乗車、解散等の協調性)
- ④ 誇張
(明らかな誇張動作は減点の対象となる)

(イ)敏捷性

素早い動作、鋭い動作、積極的な走り方を審査

- ① 諸動作の鋭さ
- ② 各動作の流れ
- ③ タイムに関係しないところでの手抜き

(ウ)士気

士気と誇張とは全く違うものである。指揮者の号令、隊員の呼称等の活発さを審査

- ① 指揮者の号令
- ② 隊員の気合い
- ③ 不要な態度

(エ)安全性

操作の荒さや転倒、けとばし等を審査

- ① 操作の荒さ
- ② ホースの持ち運び（3点支持等）
- ③ 基本注水姿勢
- ④ 服装の乱れ
- ⑤ 転倒、けとばし、踏みつけ

(オ)操法遵守度

要領のとおりに操法がされているかの内、総合審査では、熟練度と下記の事項を審査

- ① ホースライン
- ② 開始合図前の動き
- ③ 第3結合の距離の過不足
- ④ 協調した操作
- ⑤ 斉一な動作
- ⑥ 操作方法の明らかな誤り
- ⑦ 経路の明らかな誤り

(3)総合審査員は、「総合審査表」に基づき共同動作及び連けい動作等を採点する。

(4)行動審査員の基本事項

各番員審査員は、審査表にある項目のみを減点し、項目にないものは減点しないこと。

特に、共同動作等については行動審査員の審査対象外の内容なので注意すること。

(5)計時審査員の採点は2名の審査員の平均点とする。

別記「長野県消防ポンプ操法大会審査要領」注意事項について

1. 長野県消防ポンプ操法大会操法実施要領操法大会審査要領（平成 22 年 4 月）P.45「審査等の確認メモ」の【大原則】により審査を行うこと。

2. ポンプ車と小型ポンプに共通する事項 P.38～P.46

(1)文章中「～すること。」（～しないこと。）の記載のみで「～しなかった場合」（～した場合）における減点の有無が記載されていない事項の解釈は、基本的に減点対象となる。

(39) の「また、・・・」以降については、共同動作の斉一に関する事項であることから、不斉一の場合は総合審査の減点対象となる。

~~個々の体の向きが正しい場合は、行動審査員は減点しない。~~

~~(2) 吸管投入は蛇籠が水没するまで押し込むこと。~~

〔長野県操法要領 P.40（40）による〕

(3)放水圧力について、メガパスカル表示はキログラムと読み替える。

~~(4) 5秒ルール、基準タイム以内は1秒1点を加算するが、5秒以上の場合の加点は5点とする。~~

〔長野県操法要領 P.36(1)採点方法による〕

3. 審査上の留意事項

(1)失格とはならない事項で、総合審査員全員に周知すべき事項

転倒等下記の大きな事象を確認した審査員は、審査用紙回収前に審査長に報告、審査長は総合審査員を集合させ事実を伝達する。総合審査員は該当項目で減点する（H15 年度県大会採用）。

※大きな事象	① 転倒：総合安全性
	② 自動車左放口開放：総合安全性
	③ 標的の間違い：総合遵守
	④ 負傷して出血：総合安全性

白馬村消防ポンプ操法大会調整事項 (平成22年度)

1. 審判上の調整事項

~~(1)「長野県消防ポンプ操法審査要領」P.39(1)真空作成時の圧力の上昇は「プラス2kg/cm²または0.2MPa」とする。オーバーした場合は、機関員の「揚水操作不適」で減点する。~~

〔長野県操法要領 P.40(48)による〕

(2)ホースの穴あき（漏水）は減点しない（ただし、常識の程度とする）。

(3)放水中止時、ノズルに小石の詰まり等による多少の水漏れは減点しない（ただし、県大会は減点となる）。〔長野県操法要領 P.40(35)による〕

(4)結合部の引きずりは総合で減点する（H13 年度）。

(5)第1ホースに余裕部分がない場合、機関員はおおむね2mの余裕をとること。

〔長野県操法要領 P.45 最下行※印書きによる〕

この時の審査は、機関員が余裕ホースをとらない方が減点大の審査をする。

主な減点項目は下記のとおり（H13 年度）。

機関員、余裕ホースに手を触れたが修正はなかった。「余裕ホース配意不適」とはならない（総合、機関員）（H15 年度）。

機関員が余裕をとった場合の減点	機関員が余裕をとらなかった場合の減点
総合 引きずり（遵守）	総合 安全性
総合 第1ホースおす金具搬送位置不適（遵守）	総合 ホースライン
番員 ホース延長要領不適	総合 第1ホースおす金具搬送位置不適（遵守）
	番員 ホース延長要領不適

2. 大会会場設営について

(1)コース上に水まきはしない（H14 年度）。

(2)ラインはホワイトとする（H22 年度）。

3. 共通事項

(1)真空オイルを受ける、おけ・排水ホース・缶は出場隊で準備する（H13 年度）。

(2)ドレンコックは、排水後閉めて入場すること（H13 年度）。

(3)事故防止のため下着を着用する（丸、U首の半袖シャツとする）。

(4)ヘルメットの下に略帽はよい。

(5)ゼッケンは本部で用意、また吸管補助員は「補」を着ける、服装も選手と合わせる（H14 年度）。

(6)大会当日、競技レーン内での練習は認めない。総合審査員が練習と認める行為が行われた場合は10点の減点とする。また、アップをする場所は、分団テント裏または岩岳駐車場外に限定する。（H21 年度）。

(7)会場内でのエンジン試始動については下記のとおりとする（H21 年度）。

ア 試始動は、指定場所で行うこと。

イ 開会式中の試始動は禁止とする。

ウ 操法実施中は禁止とする。操法と操法の合間（他チームの出場準備中）に実施すること。

エ 上記ア〜ウについて違反した場合は失格とする。

(8) 番員に事故があったときは、補欠員を原則とするが補欠員以外の者を出場させるときは、受付の際に申し出ること。

(9) 伝令員・機関員の伝達要領をゆっくり行くと下記となるが、大きな間違いがない限り減点はしない。(H14 年度)

① 伝令員は機関員と相対し手をあげ伝令を言う。

② 機関員は伝令員が手をあげ始めたら手をあげ、伝令員の伝令後復唱し手をおろす。(同時は減点)

③ 伝令員は機関員が手をおろした後手をおろす。

~~(10) ホースは乾燥したものを使用する。器具点検時または競技開始前に水滴が認められた場合はその場で交換 (H14 年度)。~~

~~(ホースは乾燥したものを使用する。器具点検後は通水しないこと。H13 年度)~~

〔長野県操法要領 P.45 (共通事項上から 2 番目の○の※印書きによる)〕

(11) 活動服の第一ボタン（首部）は留めること（県大会同様、H14 年度）。

~~(12) 指揮者の「集まれ」で集合線上に整頓、この時 1 番員の「よし」後、顔を正面に、また腕を下ろす順は基準となる自動車・小型共 2 番員が下ろし、次に左右の番員の順とする (H15 年度)。~~

〔長野県操法要領 P.47 操法講習会以外の確認事項（共通事項）一番上の○参照〕

(13) 活動服・作業服のワッペン、競技者は外してもよい (H15 年度)。

(14) 女性団員の気をつけ、整列休めは足角度 45 度、足幅 20 cm とする (H13 年度)。

~~(15) 計器審査、針が振動により 4 kg/cm^2 または 0.4 MPa を超えた場合も減点。~~

〔長野県操法要領 P.40 (52) による〕

~~(16) 放水止めで圧力上昇は、下げても下げなくても減点しない (メーター改造は審査班長の指示で失格、H14 年度県大会審査員会議)。~~

〔長野県操法要領 P.10 (5) その他及び P.41(54) による〕

(17) ホースキャップ後のホース、ポンプ側は折り返しても、折り返さなくてもよい（審査対象外、H16 大北調整会議松川村）。

(18) 軽量ソフト吸管は使用できない (H17)。

(19) 背負いひもを出場選手の体型に合わせて調整した結果、余分な部分があった場合、安全性を確保するため、その部分をテープなどにより背負いひもに結束することは認める。

4. ポンプ車操法の部

(1) ポンプ車の冷却水バルブは閉めておくこと。

(2) ホース側、横に倒れないようにする縦板は使用しない。またホースごと角度を変えることなく床に対して直角に置く (H14 年度県大会)。

〔長野県操法要領 P.42(4) による〕

(3) ポンプ車操法において吸管操作に支障がある場合は、はしごを事前におろしてよい。

(4) ポンプ車、蛇籠等で計器が見づらくならないようにする (H13 年度)。

~~(5)出場準備の際、車の誘導員以外は伝令停止線より前に出ないこと（H21年度）。~~

5. 小型ポンプ操法の部

(1)小型で冷却水を受けるポリタンクが倒れないよう補助員をつけてもよい。服装は選手と同一でなくてもよい（H14年度）。

(2)小型ポンプ下部にオイルマットを敷いてもよい（H14年度）。

~~(3)出場準備の際、必要以上にポンプより前に出ないこと（H21年度）。~~

(4)小型ポンプの真空オイルホースが脱落した場合も、そのまま競技を続行する（減点はしない）。

漏水防止処置について

1. 排水作業等

(1)審査班長及び総合審査員はアスファルト路面に水が溜まったら、整備員（本部員）に排水作業を指示する。

(2)整備員は、ほうき・押し引きワイパー等で排水作業を行う（火点側・ポンプ側）。

(3)火点側に防水シートは用意しない。

(4)整備員は、水槽及び補水用ホース等からの漏水に対処する。

2. ホースキャップ

(1)ホースキャップ・バケツは出場隊が準備し行う。

(2)機関員は、「おさめ」の号令によりホースを離脱後、キャップ員の用意するバケツにホース内の水を少し移し、ホースキャップをするのを待つ。

(3)機関側キャップ員2人（キャップを持つ人・バケツを持つ人）は、水槽の火点側右に折りひざで待機。審査班長の「収納」でバケツとホースキャップを持ち機関員の近くに移動（余裕ホースの内側外側は自由）。ホース内の水を機関員がバケツに移すのを補佐。その後ホースキャップをして退場する。

(4)火点側キャップ員は、放水停止線より火点側の左に折りひざで待機（ポンプ車は2人）。審査班長の「収納」で筒先員の前方、放水停止線近くに移動し、筒先員が筒先をホースから離脱後努めて早くキャップをして退場する。

(5)機関員及び筒先員は、キャップ後一連の操作を行う。

(6)ホースキャップをする間、操作員の動作については審査外とする。

~~(7)大会時雨天の場合でも、ホースキャップをする（H18年度）。~~

3. 収納時、ポンプ車の機関員は、ポンプレバーに手を触れる操作を行う（実際にポンプレバーを抜くことはしない）。

4. 吸管補助員は、収納時蛇籠を水槽から出して地面に置く操作は行わない。

操作員が集合線に集まる際に支障がある場合は、水槽内で吸管を動かして処理する。

(補助員が1人で処理できない場合は、出場隊が応援する)

〔長野県操法要領 P.8(オ)による〕

5. 退場等

(1)ポンプ車は、ポンプレバーを入れたままコースを離れる。この時、吸管は出場隊の補助員又は応援により、持ったままコースを離れる(ポンプレバーを入れたまま走行できない車種は、コースを離れる直前にポンプレバーを抜く)。

(2)小型ポンプは、吸管を離脱することなく、出場隊の補助員又は応援により、吸管を持ったままコースを離れる。

(3)競技後のホースは、出場隊の応援により速やかにコース外に移動し、整備員が指定する箇所に排水する。

6. ポンプ車の冷却バルブは、操作中閉めておく。

7. 水冷式小型ポンプの冷却水は、できるだけポリタンク等で漏水を防止する。

その他

1. 進行手順の確認等

(1)審査班長は、出場順1番のチームのみ、行動・総合・計器・計時各審査員の点呼をとる。

① 操作員が待機線につく。

② 行動審査員は、担当操作員の使用器具を確認。

③ 総合審査員3は、放送者に手を挙げて合図。放送者はこの合図を確認したら手を挙げる。

④ 放送者「出場順○番、○○分団○○チーム」

⑤ ラッパ吹奏

⑥ 総合審査員3は、ラッパ吹奏後審査班長に向けて手を挙げて合図。

⑦ 審査班長は、総合審査員3からの合図に手を挙げ、「操法開始」の号令と共に旗を揚げる。

(2)行動審査員の器具点検は手を触れることなく行い、移動等が必要な場合は操作員に行わせる。

2. 強風時の標的確保及び計時審査(強風により標的が倒れる状態等の対応)

(1)運営員は、標的を倒れないように支え、放水直前に手を離し退避する。

(2)計時審査員は、標的確保員退避後に放水によらないで標的が倒れた場合は、標的の輪を水の塊が通過した時点を有効放水とする。

3. 撮影場所は、テント内、応援指定場所とする(競技場内は禁止)。

撮影・応援場所は特に指定しないが、競技進行に支障をきたす箇所は禁止とし、本部・審査員の指示

には必ず従うこと。

~~4. 水槽は、連結しないので補水で対応する（H16、H17 調整会議）。~~

5. 大会場での注意事項

(1)本部テントへの団員の立ち入りは禁ずる。本部に連絡等がある場合には、分団代表者が行う。

(2)吸い殻入れ、ごみ袋等は各分団が用意する。

(3)各分団の待機場所は特に指定しないので、分団間で調整すること。

(4)競技場内に入る応援団員は、携帯電話等のエチケットを守ること。

(5)会場内での飲酒を禁ずる。

6. 練習にあたっての確認事項

(1)練習を競技会場（岩岳駐車場）で行っている分団については、公平性を確保するため、日常練習における競技レーンの使用を禁止する。

(2)いずれの分団も、競技レーンを使った事前練習を希望する場合は、1チームにつき2時間以内を目安にすることとし、重複を避けるために、事前に消防主任まで連絡を入れること。この場合、日常練習を同会場で行っている分団とも調整を図ること。

(3)競技レーンは、6月7日（月）または8日（火）のいずれかに設置する予定。

7. 審査結果の開示に関する事項

(1)審査結果については、次の項目について開示する。

① 隊員別審査の減点数

② 総合審査の減点数

③ 所要時間の減点数又は増点数

④ ①～③の合計

第1部ポンプ車操法の部

順位	分団、チーム名	指揮者	1番員	2番員	3番員	4番員	小計	総合	時間	合計
第1位										
第2位										
第3位										

第2部小型ポンプ操法の部

順位	分団、チーム名	指揮者	1番員	2番員	3番員	小計	総合	時間	合計
第1位									
第2位									
第3位									

(2)優勝チームについては、審査結果のすべてを開示する。

放水競技実施要領



白馬村消防団

1 目的

火災現場における実践技術の向上を目的とする。

2 出場資格

白馬村消防団員であること。なおチーム編成は分団毎とする。

3 競技要領

- ① 使用器具は小型ポンプ2台、ホース4本、中継マス1個（メス口なし）、筒先2本、吸管2本とし、規格等は「長野県消防ポンプ操法大会実施要領」等に定められたものとする。ただし、中継マスへの補水にあたっては、無反動管鎗の使用を認める。なお各機械器具は分団管理のものとし、ホースは二重巻きホースとする。
- ② 登録選手は1チーム7名とする。
※ 吸管投入後の補助員の設置は認めない。（7名の中で対応）
- ③ 出場選手はヘルメット、手袋を着用する。
- ④ 伝達員は2名とし、1番のゼッケンを着用する。
- ⑤ ポンプ操作員は2名とし、2番のゼッケンを着用する。また、ポンプ操作員には機械操作に熟達した者をあてる。
- ⑥ 伝達員は、主将会議において（ポンプ操作員を除いた5名の中から）抽選で指名する。
- ⑦ 順位はタイム及び減点の合計によるものとする。
- ⑧ 競技は3分以内とする。

4 操作要領

- ① 審査班長の「操作はじめ」により、選手は使用器具を指定位置に運び設置し、放水作業にかかる。
~~ポンプ・中継マスの位置は標示する。~~
- ② 放水の開始は伝達員の伝達により行う。
- ③ 第1線展長後、ホースへ筒先の取付けが完了したのち、筒先員は「放水はじめ」を合図し、伝達員はそれを復唱したのち、第1ポンプ側へ伝達する。
※ 筒先員が「放水はじめ」の合図をする位置は問わない。ただし、全ての結合が完了した後に合図すること。結合完了前の合図は減点事項④（危険動作）として減点する。（以下第2線展長も同じ）
- ④ 操作員は第1火点を倒したのち、中継マスへそのまま給水する。
※ 中継マスへの給水後に第1火点を倒すことは認めない。
- ⑤ 第2線展長後、ホースへ筒先の取付けが完了したのち、筒先員は「放水はじめ」を合図し、伝達員はそれを復唱したのち、第2ポンプ側へ伝達する。
- ⑥ 火点・ポンプ側とも伝達位置は表示する。（伝達位置は必ず線を越えること）
- ⑦ 火点は5個所とし、5個所目の火点への放水が有効放水となった時点、又は審査員が失格事項と判断した時点で競技終了とする。
- ⑧ ポンプの操作は「長野県消防ポンプ操法実施要領」及び機械器具の取扱説明書等を参考にし、安全で確実な操作を心がける。

5 審査要領

- ① 審査班長の「操作はじめ」の「め」から、5個所目火点への放水が有効放水となる時点までのタイムによるものとし、審査会で順位を決定する。
- ② 審査長1名 審査班長1名 審査員2名 計時審査2名

6 失格、減点事項

(1) 失格事項

- ① 3分を経過した時点で、全ての火点を倒せなかったとき。(時間超過)
- ② 危険行為等があった場合には、審査員は直ちに操作中止を命令し失格とする。

(2) 減点事項 (タイム加算)

- ① 伝達員の伝達する位置が指定位置に達していないとき。(伝達位置不適) → +10 秒
- ② 伝達終了後のホースの離脱 (結合不適) → +10 秒
- ③ 伝達前に放口コックをあけた場合 (伝達前送水) → +20 秒
- ④ 審査員が危険であると判断した操作・動作 → +20 秒
- ⑤ 機械器具の破損につながる操作 → +20 秒

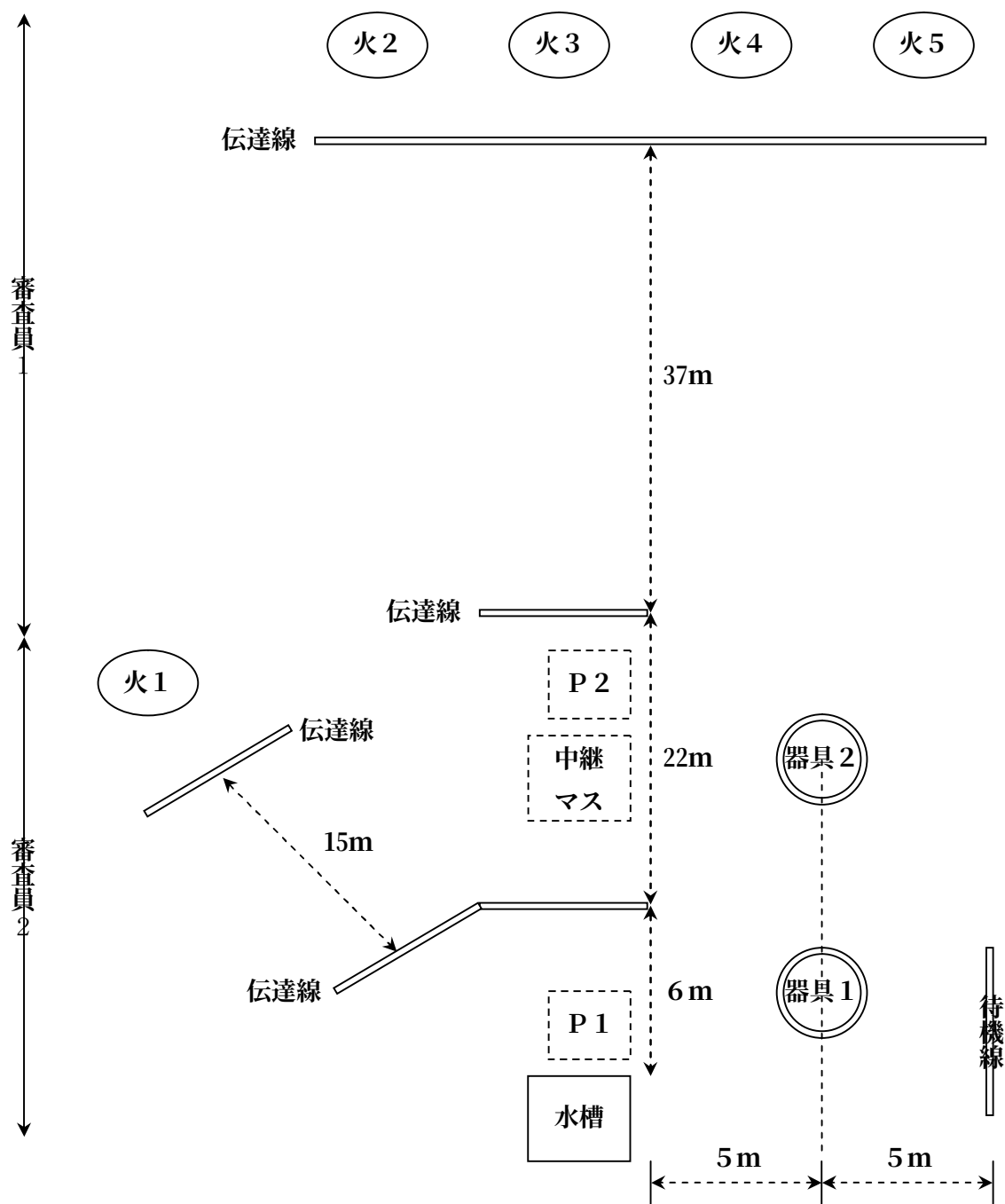
※ 伝達員が故意に伝達をしなかった (伝達線前の伝達を含む) と認められる場合は、(2) ④を適用する。(あくまで審査員の主観で判断)

7 表彰

優秀なチームを表彰する。

□凡例	_____	H13 に新設されたルール又は統一事項
	_____	H14 に新たに取り決めたルール
	_____	H15 に新たに取り決めたルール
		H20 に変更したルール
	-----	H22 に新たに取り決めたルール

放水競技配置図



—— 表示線
※ 距離は目安

器具1：筒 先 1
ポンプ 1
ホース 1
吸 管 1

器具2：筒 先 1
ポンプ 1
ホース 3
吸 管 1
中継マス1

白馬村消防ポンプ操法大会出場選手報告書

平成22年6月 日

大会長

白馬村消防団長 太田 誠 様

分団 分団長 氏名

平成22年度白馬村消防ポンプ操法大会の出場選手を次のとおり報告します。

第1部 ポンプ自動車操法の部

チーム名

	階級	ふりがな 氏 名	年齢	備考
主将				
指揮者				
1番員				
2番員				
3番員				
4番員				
補 欠				
補 欠				

※ O脚等の申出事項がある場合は、備考欄に記入すること

※ 6月9日（水）までに消防主任へ提出すること（FAX72-7001）

白馬村消防ポンプ操法大会出場選手報告書

平成22年6月 日

大会長

白馬村消防団長 太田 誠 様

分団 分団長 氏名

平成22年度消防白馬村ポンプ操法大会の出場選手を次のとおり報告します。

第2部 小型ポンプ操法の部

チーム名

	階級	ふりがな 氏 名	年齢	備考
主将				
指揮者				
1番員				
2番員				
3番員				
補 欠				
補 欠				

※ O脚等の申出事項がある場合は、備考欄に記入すること

※ 6月9日（水）までに消防主任へ提出すること（FAX72-7001）

放水競技出場選手報告書

平成22年6月13日

大会長

白馬村消防団長 太田 誠 様

分団 分団長 氏名

放水競技の出場選手を次のとおり報告します。

チーム名

1 2 3 4 5 6 7	階級	ふりがな 氏 名	年齢	備考
				ポンプ操作員
				ポンプ操作員

- ※ 大会当日の主将会議時に提出すること
- ※ ポンプ操作員は、あらかじめ指定すること
- ※ 伝達員（2名）は、ポンプ操作員を除いた5名の中から、当日のくじにより決定するので、本報告書のコピーを控えとして分団で所有すること